

検 査

平成25年産秋まき小麦初検査

25年産の秋まき小麦の生育は、融雪期が遅れたものの、雪腐病の発生は平年並みでした。融雪後、4月から5月中旬まで、極めて低温・寡照に経過したことから、生育は著しく遅れました。

その後、5月下旬から一転して高温・多照となり生育が回復し、出穂期を迎えました。

ただ、出穂期以降、成熟期までの登熟期間は、平年に比べ平均気温が高く各地とも短縮されました。

また、一部の地域では、成熟期前後に倒伏の発生が見られました。

このような生育状況のなか、本年産の初検査が7月30日 JA たきかわ（空知管内）で行われました。検査の内容は、秋まき小麦「きたほなみ」560トンで、その全量が1等（Aランク）に格付けされ、成分内容も問題なく、良質な小麦が検査されました。

今後、順次全道各地において米穀、豆類など、農産物の検査を実施してまいります。

刈 取 日 7月27日（土）
 検 査 日 7月30日（火）
 検査場所 JA たきかわ 北の米蔵検査場所
 銘 柄 「きたほなみ」
 等 級 1等
 検査数量 560t



JA たきかわ検査場所

<検査部の品位統一程度・指導体制>

本年度の検査体制は、従たる事務所98箇所、検査場所213箇所、品位等検査の登録検査員805名、小麦の成分分析検査員5名となっています。

検査数量は、米穀・小麦・大豆など8種類を対象に140万トンを計画しています。

指導体制では、全道の品位程度統一のため、本部技監3名を中心に指導的検査員である地区統括検査員10名とともにJAの実務責任者を核として程度統一を図ってまいります。

全道程度統一のためのチェックシステム

米穀・小麦・大豆等の検査

